



……もうすぐ目的地付近デス、運転ゴクロウサマでした・・。

「**准っ！ほら起きてっ！もう着くからっ！**」

「ん……ふああっ……あれ？旅館どこ……？」

「**旅館じゃないわよっ！練習場っ！**」

「ええっ！もう練習すんの？！今日はいっしょっ！車に五時間も乗ってて疲れたよー……」

「**アンタ寝ただけでしょっ！まだお昼過ぎなんだから全然練習できるわよっ！**」

「たかだか県の地区予選で気合入れすぎだよ……姉ちゃんっ。」

「**あたしの弟が県予選も勝ち抜けないなんて許せるもんかっ！卒業前の最後の大会っ！姉ちゃんが絶対勝たせてやるからねっ！**」

「……あいかわらずの負けず嫌い……。別に俺はオリンピック目指してるわけでもねーし、そもそも大学で陸上する気もないんだって……」

「**そっいう問題じゃないのっ！三年間の集大成なんだからあ、全力で挑んだ方が絶対素敵な思い出になるってっ！……なっ！**」

「ほんと熱血だなあ、松○シューゾーみたい……。まあ、日本代表の強化選手になるんだからメンタルお化けなのも当然かあ。」



俺の3つ上の姉は陸上・短距離走の日本代表候補だ。小さい頃から神童と呼ばれて何度か全国放送のテレビでも採り上げられたこともあるほど。

翻って俺は、そんな姉の影響で同じ競技を始めたものの、ここ何年も自己ベストを更新することなく……部内でも特に期待されることもなく最後の大会を迎えようとしていた。

「別にわざわざ練習見にくなくてもいいのに……いろいろ調整とかあんじゃないの？俺のせいで調子落としたら国民に叩かれるわ」

「あほう、あんたのコーチしたくらいでなんも変わらんわ。それに今オフシーズンだから、本格的な調整はむしろ行ってからすんの。」

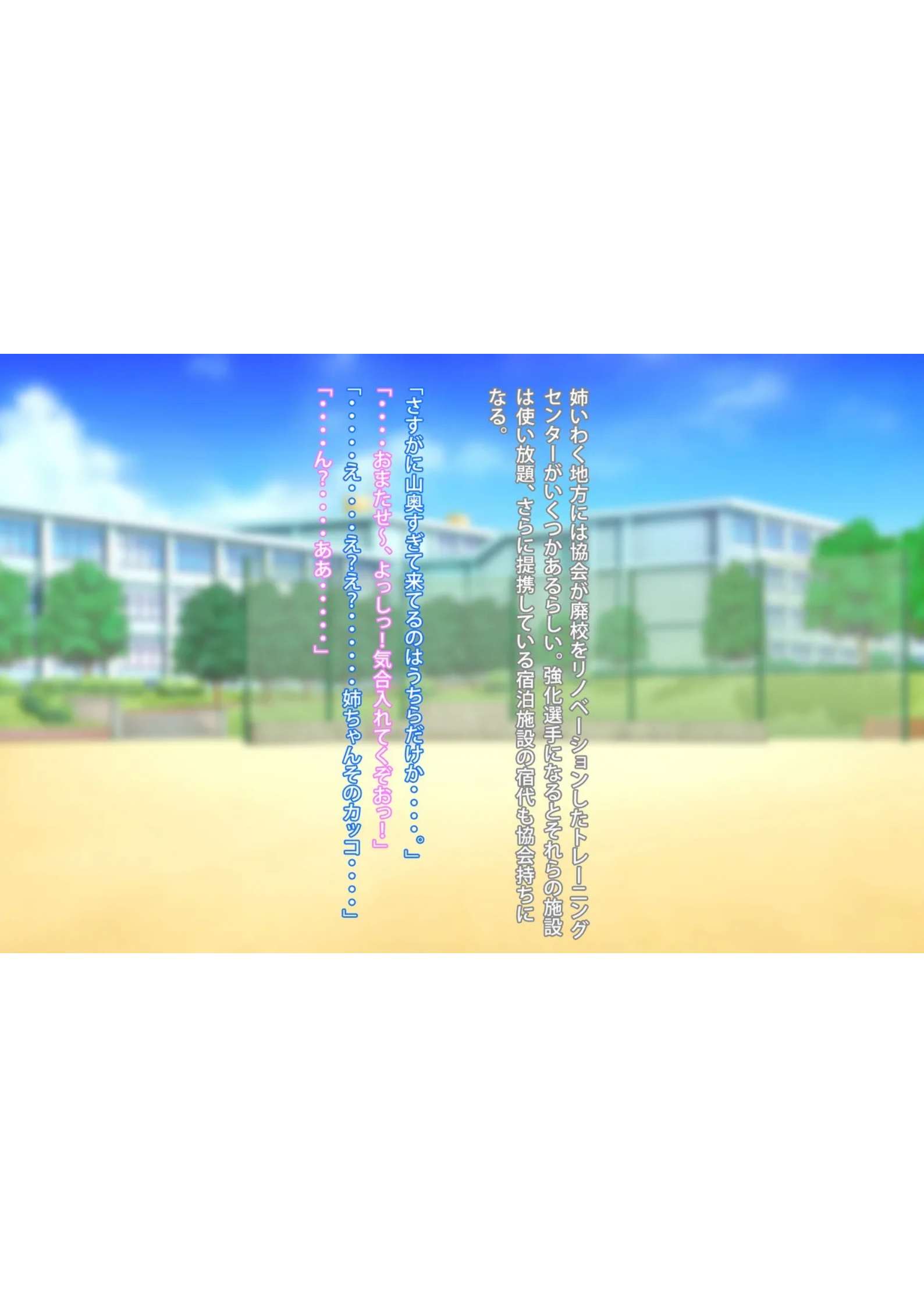
「あつそ……そりゃわざわざあんがと。」

「だからっ！わざわざオフに練習付き合うんだから！中途半端な成績じゃあスツキリと渡米できないでしょっ！」

「（……彼氏と別れて暇になっただけだと思うんだけどなあ……）
……ブツブツ……」

「あっ！あそこだっ！あの廃校だわっ！」



The background is a soft-focus illustration of a school campus. In the foreground, there is a large, open yellowish-brown area, likely a sports field or courtyard. In the middle ground, there are several green trees and a low fence. In the background, a large, modern school building with multiple windows and a flat roof is visible under a bright blue sky with some white clouds.

姉いわく地方には協会が廃校をリノベーションしたトレーニングセンターがいくつかあるらしい。強化選手になるとそれらの施設は使い放題、さらに提携している宿泊施設の宿代も協会持ちになる。

「さすがに山奥すぎて来てるのはうちらだけか……。」

「……おまたせ、よっしっ！ 気合入れてくぞおっ！」

「……え……えっえっ……姉ちゃんそのカツ」……」

「……ん？……ああ……」

ね、姉ちゃんそれ競技用ユニーじゃん……っ！
ああ、やっぱこれじゃないと気合いはいらなのよね♪

どおっん

どおん



……きつしたうもぞもぞしちゃうてっ……
らやっ……あのお……とっ……アイトっ……すきゅんアイト行っ
くるわっ！

えいっ……もおっ！先済ませとけよっ時間ないんだからなっ！
ああっごめんごめんっ……



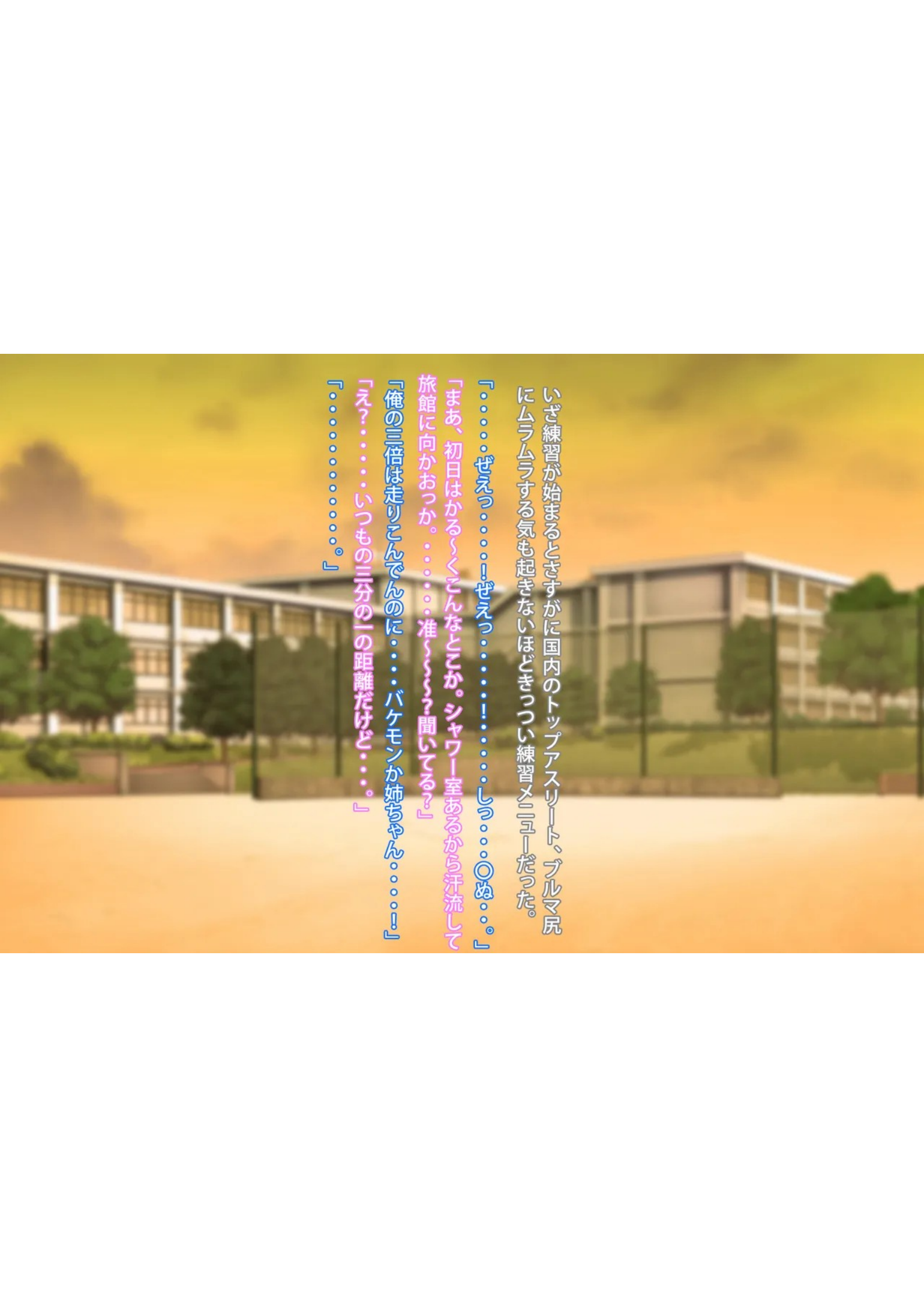
もこり

「あゝびっくりした……。何げに動画や画像でしか姉ちゃんのお尻と太もも……。とりあえずかくく抜いてこないとフル勃起しちゃうよ……。」

慌ただしくトイレに向かいながら思い出していた。はじめてのオナニーは洗濯カゴから借りてきた脱ぎたてのレーシングブルマと、ネットに上がっていた競技中の姉のまとも動画でいたしたことを……。

「二人っきりで二泊三日……。うっ……。ガマンできっかなあ」





いざ練習が始まるとさすがに国内のトップアスリート、ブルマ尻にムラムラする気も起きないほどきつい練習メニューだった。

「……………ぜえっ……………ぜえっ……………!!……………しっ……………ぬ……………」

「まあ、初日はかる〜くこんなところか。シャワー室あるから汗流して旅館に向かおうか……………准……………聞いてる?」

「俺の三倍は走りこんでんのに……………バケモンか姉ちゃん……………!!」

「え?……………いつもの三分の二の距離だけ……………」

「……………」





ザアアアア!!

でやめ〜そのの監督つてのがまあたやなヤツでやめ〜
聞いてる〜准?

はあっ!♡はあっ!♡はあ...
あ...うん...聞いてるよ...
...♡

シシシ!!

ザアアアア!!

まあその子も結構いい匂いするわね……
気が強いっていつかはおも……

(おお……♡この壁の向こうに全裸の姉ちゃんがあ……!♡)

ワタワタ!!



ザアアアア!!

あっ!やだあっ!シャンプー切れてんじゃんっ!
准っっっ!そっちの貸してよお。

(ああっっっ!♡見えるう!♡♡ぱつぱつの練習着の
おかげで姉ちゃんボディラインが脳裏につ!!♡)

パツパツ!!





ねえ、ちよつと聞いてんのっ!?

ああっ……はいはいっ……せいし……じゃなかった
シャンプーねっ!

どひゃ!!

ドオオ……♡♡♡





「へ〜肉風呂も付いてんだ、結構豪華だなこ。」

「そう、普通に泊まったら高いんだからあたしに感謝してよねっ」

「はいはい、お姉様の日頃の努力のおかげでこんないいトコに宿泊できて感謝しております。」

「碧も連れてくればよかったかな〜、最近受験が近いせいかナーバスになってるもんね、あんま口も聞いてくれないし・・・。」

碧は末っ子。ただいま絶賛反抗期中だ。

「いんじゃないのほつとけば。きょうただいだけで旅行なんてむこうが断るっしょ。」

「さびしいな〜、昔は素直で可愛かったのに。」

「姉ちゃんが甘やかし過ぎるからだよ、俺にはめっちゃ厳しかったくせに。」

「准は長男だからな、母さんの意を汲んで泣く泣く厳しく育てたっつーわけよあたしや。」

「・・・ほぼパワハラだった記憶なんだが・・・違う世界線生きてた？俺達。」

「まっ、そんな事よりやっとなってきたオフィスズンっ！今日は目いっぱい酒のむぞおっ！！」

「なるほど・・・栄養管理してる母ちゃんの目を盗んで大酒かつくらうために俺を利用したのか・・・。」

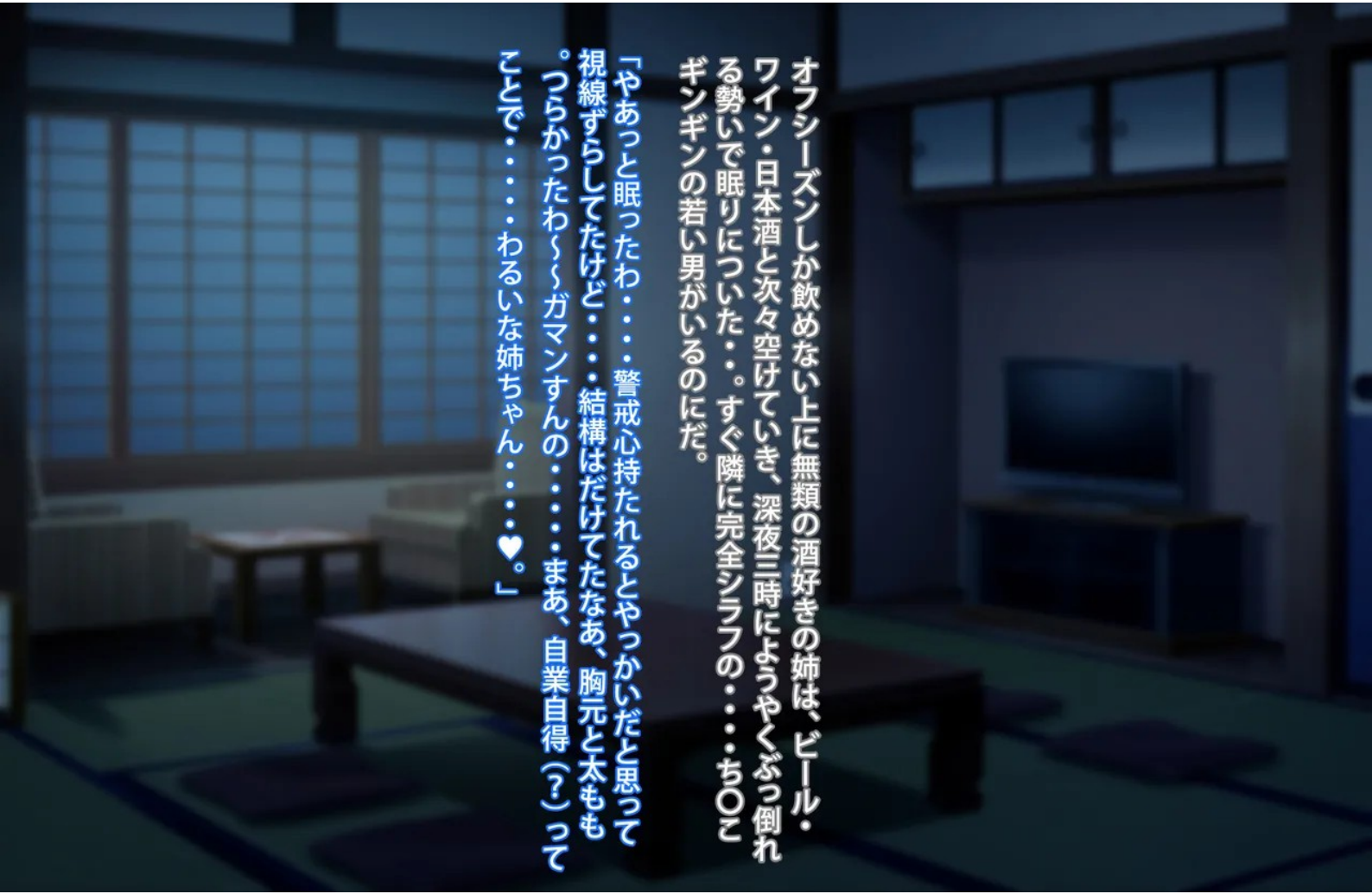
「えへへ〜、バレたあ？」

「（・・・まっ・・・おかげで」ツチも腹くくれたけどな・・・♡）」





「.....ふん.....ふん.....」



オフシーズンしか飲めない上に無類の酒好きの姉は、ビール・ワイン・日本酒と次々空けていき、深夜三時によくぐぶっ倒れる勢いで眠りについた。。すぐ隣に完全シラフの。。。ち〇こギンギンの若い男がいるのになだ。

「やあつと眠ったわ。。。警戒心持たれるとやっかいだと思って視線ずらしてたけど。。。結構はだけてたなあ、胸元と太もも。つらかったわゝゝガマンすんの。。。まあ、自業自得(?)ってことで。。。わるいな姉ちゃん。。。♡。」



「……ん……ん……？……なに……准……？」

「突然だけど……俺、姉ちゃんが好き（オカズとして）なんだ……姉ちゃんはお？」

「……どおって……？そりや家族として好きだけど……」
「そおじゃなくてえ、男としてってこと。」

「はあ？あんたさっきから何言ってるの……？」

「もお、にぶいなあ相変わらず……つまりさ……」

「……ちよつ……」





だっ…ダメっ…！ 准っ…！ 抜きなさいっ…！

おおっ！♡ 念願だった菜々子のお○んこっ…！♡

ぽん！ぽん！

痛くないだろ?♥寝てる間にたくさん舐めまくったからっ!
結構お汁出やすいね姉ちゃんっ♥♥



てっ……てめえ何勝手に……んっ♥……だっ……!!
ダメだって准っ!!きようだいでっ……こんなっ……の!

締めキツいのかと思ったけどそんなことないねっ♡
中身♡しっかり女の子じゃんっ…♡♡♡

ぽん!!ぽん!!

そっ…そんなとっ…♡…ゆ…ゆ…ゆ…
（で…でかっ…んっのお…）お願い…抜いて…



えっああ、そうそうずっと姉ちゃんであいてたんだよ俺っ♡
ネットにたくさん上がってるからさ姉ちゃんのエロ尻っ♡♡
お股にくい込んだブルマのアップとかっ!♡



そ...そんなつもりで...履いてないのに...っ!!
あっ...!♡んっ!♡んんっ!!♡♡♡♡奥っ♡やめてえ
...っ...!♡







「なるほどね……まんまとお馬さんの鼻先に人参ぶらさげ
ちゃったわけね……。」

「ごめん姉ちゃん、そーゆーこと♥」

男にそーゆー見方されてるのは分かってたけど、こんな身近に
もいたとは思わなかったわー！
いや、でも誰でもいいわけじゃないぜっ……あくまで
好きな女がえっちらカッコーしてるって前提が……



昼着用済みの姉ブルマ



変態のくせに何かツコつけてんだよっ!!
ほらっ!! イケっ!! イケっ!!

おおっ……!! ♡ けっ♡ 軽蔑しきったその冷たい目がたまらん
っ!! ♡ ♡ ♡

うわ!!
うわ!!

おっ!!

おっ……♡おおお……！♡♡
ん……♡やだ二発目なのにめっちゃ出るじゃん……（笑）
っていつか、風呂上がったから寝る前にもつかい……♡♡
まあ……別にいいけどさ……♡



絶対にママ達に内緒だからなっ！ーあとこんな事すんの
今日と明日だけっ！家帰ったら忘れろよっ！ー
もちろんっ！♡ありがと姉ちゃんっ！♡一生の思い出
にしますっ！ー♡♡





「…あつ♡…んっ！♡んっ！…はんっ！♡」

(ええ...やば...久しぶりにめっちゃ気持ちいい...。
大きさもスキだけど角度が...♡...ピストンのリズム
すごい心地いいし...これが相性ってやつですかあ...?!)

おるん!!

ほわ
ほわ
ほわ!!

(気持ちいい?って聞いたらぶつとばされそうだな...でも確実に
悦んでるよな...ああ♡エッチ中の菜々子の顔かわいい♡)

(ああ〜っ♡やばいっ!♡ち○ぽ気持ちイイ〜っ!♡♡これ
もし彼氏だったらめちゃうくちゃ鳴いちゃうよなあ…弟だからギリ
我慢してるけどおっ!ああっ!声出したいっ!♡んでどさくさに
まぎれてエロい事言いたい〜っ!)

おるん!!

ほわっ
ほわっ
ほわっ

(持って来といてよかったなあお気に入りのコレクション♡まさかほんとに姉ちゃん
に着せてエッチできると思わなかったけど…♡)

姉ちゃんほんとに中に出しちゃつていいの？

(やったあつ!!♡)



。。。いいよべつに。。。今日安全日だから。。。
（やったあっ!!♡）
（ああ♡なんかしんないけどめっちゃ体の中汚されたい気分。。。なんなのこれえっ!!♡）

（ああ♡なんかしんないけどめっちゃ体の中汚されたい

気分……なんなのこれえっ！(♡)

ドゥン!!

トゲノミ!







「……ひ——っ……ひ——っ……ダッッッきっ……」

「見たところあんたは筋力がたないわね!」

「ほう……たしかここジムも完備してたよな、じゃあ手本見せて
よトレーニングの。」

「いいよ、プロの筋トレ見せたるわ。」





うおおっ~~~~っ！すげえすげえっ！さすがトップアスリートっ！

ふうっ！.....ふっっ.....！！



背筋もエグいが下半身の安定感たるや・う！♡♡♡
もうっ！変な事させんなっ！……あっ！♡……んっ！♡

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ

でも結構理にかなってるかもよ、インナーマッスル(まのこ)の強化とかっ♡
あっ!♡んっ!♡(もお♡いつもより締まるからデイルドのカリ首がっ♡)
おおっ♡姉ちゃんの汗ばんだ背筋めっちゃエロいつ!♡





くっ♡♡♡...!ばかある...!

ドオ...

やっ♡♡ザーメンが映えるねえ、菜々子姉ちゃんの肌わっ!♡♡

びん

びん





はあっ！♡はあっ！♡競泳水着もめっちゃ似合うよっ♡♡姉ちゃんっ♡♡
あんっ！♡そーみたいねっ♡准のアソコっ♡かっちかちだもんっ♡♡
姉ちゃんのおかげでグシとタイムも縮まったしっ♡ありがとなっ♪
はっ…んっ♡なんか走るとこ以外の運動の方が多かった気もするけど…♡

姉ちゃん・・・その・・・日本発つまでの間の関係続けたいんだけど・・・。
まあいいわよ・・・あたしも暇だし・・・運動にもなるし・・・♡けど絶対に
みんなにはバレないようにねっ！
ああ分かってる、特に母ちゃんにバレたら・・・二人とも家追い出されそっ
だもんな。



まあでも留学前に心配事が1個片付いてよかった……あとは碧だなく心配
なのわ……。
そんなに深刻？
だってあたしが実家に帰ってから目も合わせてくんないだもんっ……ママとは
会話してるのに……。なんか怒らせるような事したかな……。？
……。あ……なるほど……(笑)。



なに？なるほどって.....
まあ俺にまかせといてくれ。











…一週間後。

「じゃあママ達夕方には帰ってくるから洗濯物の取り込みとかお願いね。」

「はーいっ。せつかく夫婦水入らずなんだから家の事は気にしないでゆっくりしてきなよ。」

「そうそう気にしないで。姉ちゃんだってカップ麺くらいは作れるんだからさー(笑)。」

「あ?」

「もー、いい歳してケンカすんじゃないわよあんた達わ。ま、とにかくたのんだわよ、じゃ。」

……ボタンツ

「……………」

「…………姉ちゃんっ……♡チューしよっ……♡♡」

「ばっ…………車出るまで待てっっ!」

「こっち帰ってきてからまだ1回しかシテないじゃんっ!今日は夕方までたっぷりエロい事しよっっ!♡」

「声デカいっ!…碧が聞いてたらどおすんのよっ!…」

「アイツは朝から塾に行ってるよ、自習室で勉強するとかで。」

「……………そうなの?」

「ああ♡だから今は二人つきり…………♡♡。したいプレイあるからさあ、早く俺の部屋行こっっ♡」

「わ、分かった分かった、押さないでっ。」



「…………おう、碧。今日は塾行かないのか？」

「水曜は自習室閉まってるから、家でやるんだよ。」

「ふーん、そう言えばお前最近菜々子姉ちゃんに冷たいそうじゃん？」

「…………別にそんなことないよ。」

「姉ちゃん落ち込んでたぞ…………って言うかお前お姉が気になってるんだろ？(笑)」

「…………は？ー何言ってるんだよー！」

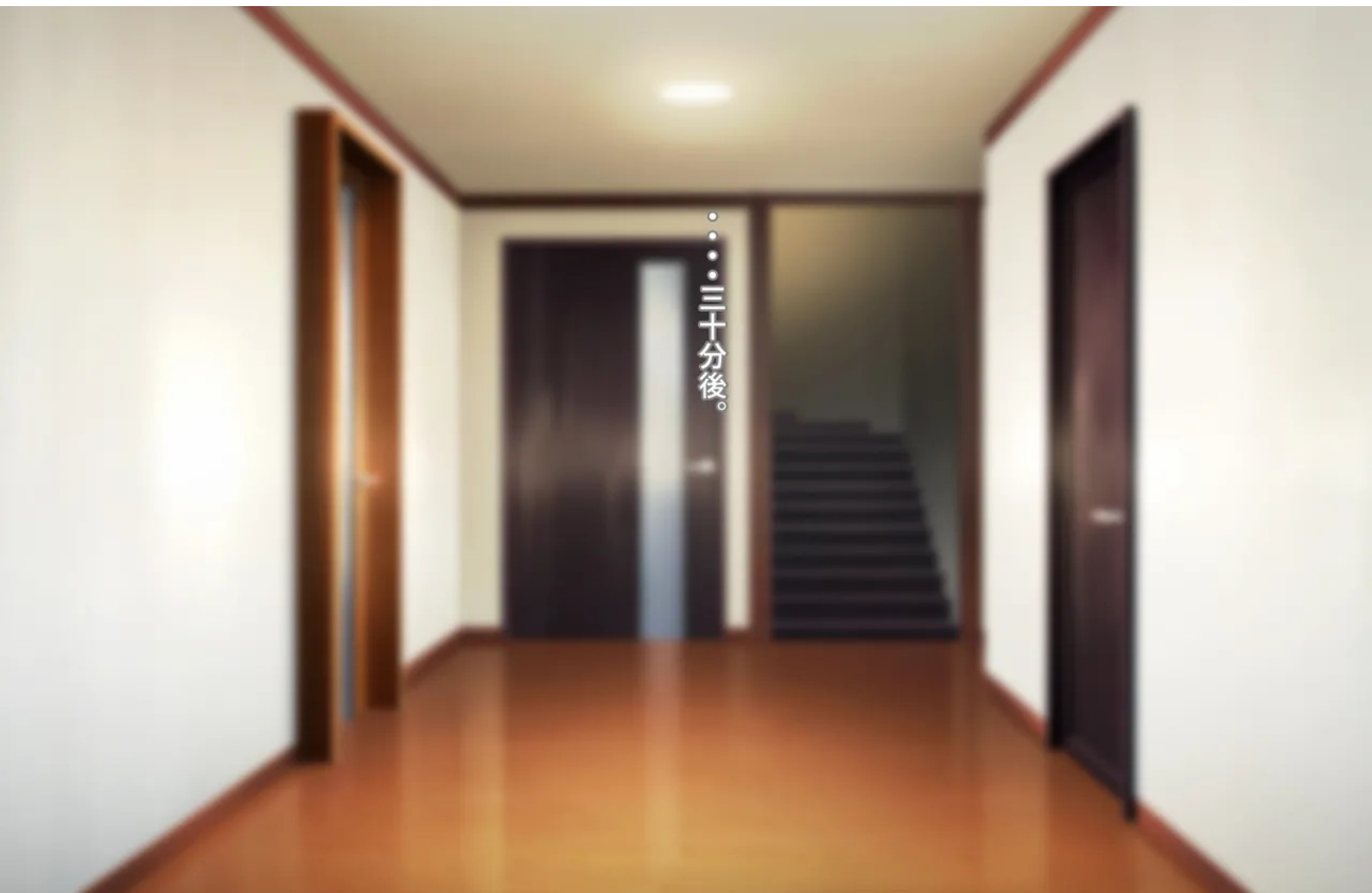
「わかるぞおー！あんなに色っぽくなって帰ってきたんじゃ、思春期の男ならみんな気になるよなあーうんっ。」

「何勝手な事いつてんだ兄貴っ。」

「…………碧…………三十分たったら物音立てずに俺の部屋に入ってこい。絶対に声も出すなよ、いいなっ！」

「……………」

……三十分後。











すげっ!♡姉ちゃんのデカ尻にち○ぽ♡根本まで
喰われてるっ!♡♡

カリ!!カリ!!

カチカチ

だつてえ♡准のお○んちんおつきくて
超気持ちいいんだもん♡♡♡♡♡

(…うわぁ…菜々姉えっろ…♡)

ぎゅ!

すけべな菜々姉のことだから回こつでち○ぽ漁りまくん
だろ?どーせっ♡

カリ!!カリ!!

かき
かき

あんっ!♡そんな事しないよおっ!♡♡
准に犯されるのが一番気持ちいいんだからあっ!♡

(…うわあ…菜々姉えっろ…♡)

ぎゅ!
ぎゅ!



なら日本にいる間に向こうで浮気しないようにしっかり調教
しとかないとなっ!♡♡

カリ!!カリ!!

かき
かき

ああん~~~~っ!♡♡♡してしてえ!♡♡お姉ちゃん
准の専用まのこになるからあっ!♡♡いっぱい♡
不回来事してえっ!♡♡♡

(…はあっ!♡はあっ!♡♡♡)







はっ♡はっ♡ねーはやくうっ♡♡♡
お顔にせーし♡ぶっかけてえ…♡♡♡

おん

こら菜々子っ♡お行儀良く待てない子
にはかけてあげないぞ♡♡♡



やだあつ……ごめんなさあい……♡♡

ひそひそ……(すげえ……兄貴!。はじめて尊敬したよ♡)

ひそひそ……(はじめて……どうもウチのきょうだい達はみんな

クチが悪いな……ま、まあとにかく……受験に合格したら俺が

上手いこと菜々姉で筆下ろしさせてやるから、なんとか頑張れよ。)

おん

はっ！♡はっ！♡お〇んちんのおいぞくぞくするっ……♡
ああんっ♡今日は特にいっぱいにおつてくるよお……♡♡♡♡♡

あんん

ひそひそ……（ありがとうっ！絶対合格して菜々姉と種づけセックス
やりまくるっ！……♡♡♡）

ひそひそ……（おっ……おおっ、がんばれがんばれ！……種づけって……
見かけによらずあぶねーヤツだな……まあいいか……なんか元気だし……）

はーっ!♡はーっ!♡ああんっ...!♡♡♡♡♡
ザーメンで顔イッパイ犯されてるよおおっ...!♡♡♡♡♡

ズクズク!!

トロキ...

そのスケベ面なら夕方まであと2、3回戦でできるよな菜々姉っ♡♡



あんっ！♡できるうううっ♡♡菜々子のすけべお○んこっ♡
いっばい使ってえええ〜っ！♡♡♡♡

お・し・ま・い

꺅꺅꺅!!



